

【資料2】

⑥

洪水ニ付見舞

一 重組  
植田

一 味噌漬香之物

二 梅ほし(本)

三 ひら塩焼(飛)

四 にしめ(兔)

木くらげ

ゑひ(飛)

酒弍升

氷とふ(婦)  
干わ(手)らひ

白米四升ツ、

髪結 出入り 同

八蔵 佐兵衛 清蔵

同 三升ツ、

出入り 同 同

林平 幸助 万(萬)蔵

同 御崎 出入り

弥曾吉 おた(多)つ 利助

筆者は、筆跡から三郎右衛門（11代）と考えられる。三郎右衛門は分家の花屋から養子に入る。  
その在世期間から考えて、これは嘉永3年（1850）の水害の記録と思われる。

一 ぬめし (兔)  
おはま (者満)

にしめ (糸)  
紋助  
いりこ  
茂吉  
こんふ



一 白米 弍升  
御崎  
おりき (里起)

一 むすひ (春)  
壱重ツ、  
広畑 (廣)

同 佐吉

同 亀吉 (龜)

同 周蔵

同 七蔵

いせ蔵  
五人

一 きす (春)  
七つ  
福島 (嶋)

きす

一 にしめ (糸)  
干わらひ (玉)  
神崎  
こんふ (婦)

一 重組  
廣江屋

砂糖かけ

ゑひ(飛)

一 丸山梅

二 きんなん

し(志)やうか(可)

三 うなき

四 玉子卷すし(卷)

五 のり卷すし

酒壺升

右者安江村江遣ス

一 かまほこ 三枚  
坂口屋

囉合

一 白むし 壺重  
瀬尾屋

ひ(者)はも 三本

囉合

一 赤飯 式升 壺重  
植田

氷とふ(婦) 式十

料理物 し(志)ゐたけ(多) 式十

かん(飛)ひよう

一 かれ(連)る  
壹枚

せ(勢)に屋

一 羊羹  
貳本

さ(佐)くらや

囉合

一 かま(満本)ほこ  
三枚

広(廣)田屋

一 あ(阿)かう  
三ツ

同家  
新宅

↑追記

一 同  
貳枚

尾崎

一 同  
貳枚

三宅屋

一 同  
貳枚

い(主)わしや

う(越)をや

一 同  
貳枚

お(婦)ふさ

羽(満)しま

一 同  
三枚

庄屋

一 同  
三枚

松の木